

17-20面	東信 前向く上田の被災農園
4面	北信 応急仮設入居受け付け
22面	中信 オーロラの美を伝える
35面	諏訪 計画伐採「補助足らぬ」
5面	飯田伊那 山村留学の経験生かす
	地域ニュース26-29面
	2019年(令和元年)
	11月16日
	土曜日

17-20面
東信 前向く上田の被災農園
北信 応急仮設入居受け付け
中信 オーロラの美を伝える
諏訪 計画伐採「補助足らぬ」
飯田伊那 山村留学の経験生かす
地域ニュース26-29面

2019年(令和元年)
11月16日
土曜日



絶景 来季も楽しみに
北アルプス上高地で閉山式が開かれた。河童橋にも多くの人が集い、穏やかな来季の到来を願った。 地域面中継から
大相撲 ●御嶽海 よりきり 宝富士 25面

信濃毎日新聞
1873年(明治6年)創刊
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南野町 657番地
電話(026) 3390-8585
受付236-3000編集236-3111
販売236-3310広告236-3333
松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話(0263) 323-2830
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社2019年

新米をもって十一月から
茅屋せむぎ
けんみんようじん
品質進化 竹ノ風
http://chikufudo.com

天気
最高気温 最低気温
飯山 13 2
長野 13 5
大町 12 1
松本 15 4
上田 14 2
佐久 14 1
諏訪 13 2
木曾 11 0
伊那 12 0
飯田 16 2

5%以上 5%未満
28面に詳しい天気情報

日常 戻った鉄道のしな



小諸方面から上田駅に着いた電車がホームに降りる。通勤通学客たち15日午前8時35分、上田市

台風から1カ月 全線再開 通勤・通学客に笑顔

しなの鉄道(上田市)は15日朝、台風19号の影響で連休していた田中(東御市)駅間の運行を再開し、ほぼ1カ月ぶりに全線が開通した。通勤、通学の高校生や社会人らが乗り降りし、「やっと日常に戻った」と喜んだ。連休原因になった海野宿橋(東御市)付近は復旧し、「災害を感銘した」との声もあった。

【焦点3面に】

一部が崩落した海野宿橋付近は緊急工事を経て、始発から通常通りの本数で運行。上田駅では小諸発の下り列車が到着した午前7時50分ごろ、一斉に高校生や社会人が改札を出てきた。

上田高校2年の塚田光砂さん(17)は「佐久市はJR佐久平駅(佐久市)から小海線としなの鉄道を利用していた。連休中は、JR東日本としなの鉄道が学生や生徒を対象に14日まで行った北陸新幹線(長野経由)の代替輸送を、15日からは北陸新幹線(長野経由)の代替輸送を受け、上田から小諸まで乗ることができた。連休中は、JR東日本としなの鉄道が学生や生徒を対象に14日まで行った北陸新幹線(長野経由)の代替輸送を受け、上田から小諸まで乗ることができた。



県内避難指示全て解除

長野市災害対策本部は15日午後5時、台風19号に伴い千曲川支流の保科川上流で土石流の恐れがあるとして、若穂川田、若穂保科両地区の一部(約10世帯、3013人)に出していた避難指示を解除した。市危機管理防災課によると、土砂や倒木撤去などの復旧工事が終わり、土砂の危険の解消を確認したため、台風19号による災害発生から1カ月余りを経て、県内での避難所開設も長野市だけとなったが、市災害対策本部によると、市内では294世帯676人(15日午前7時時点)が避難生活を続けている。市は11月末を避難所閉鎖のめどとしているが、流動的だ。

地滑りの恐れがあるとして10月28日午後5時に同市信州新町弘崎の2世帯5人に出した「避難準備・高齢者等避難開始」は当面継続する。

北陸新幹線 年末年始1割減

定期列車 今月30日から増便

JR東日本は15日、台風19号による浸水被害で一部車両が使えなくなり、列車本数を減らした暫定ダイヤで運行している北陸新幹線(長野経由)の年末年始(12月27日~来年1月5日)の臨時列車の運行計画を発表した。期間中の運行は186本で前年同期から3割減。定期列車と合わせても1割減となり、帰省やUターンでは混雑が予想されるとしている。

同社は年末年始のピークの時期をずらした利用や「かがし」北陸新幹線は台風19号による

国交省「氾濫発生」速報メール

上田千曲の2カ所未配信



台風19号による千曲川の氾濫に関する緊急速報メールが流れた一部で配信されなかった問題で、国土交通省北陸地方整備局は15日の信濃毎日新聞の取材に、国管理区間(上田市の飯山市)の2カ所(千曲市)の2カ所(千曲市)で「河川氾濫発生」(警戒レベル5相当)の情報を送信していなかったと明らかにした。千曲川流域で、堤防上を越えて水があふれる「越水」が相次ぎ、作業が重なったためとしている。

12カ所では10月12、13日にいずれも越水が発生。このうち長野市穂保の左岸では堤防決壊に至った。同整備局によると、氾濫発生メールが配信できなかったのは上田市国分、千曲市雨宮のともに右岸側。この2カ所では氾濫危険水位に達した段階で「氾濫のおそれ(警戒レベル4相当)とするメールは配信した。だがその後、氾濫発生メール

を流していなかった。携帯電話会社を通じてスマートフォンなどに送る緊急速報メールは、避難勧告の発令判断の目安となる「氾濫危険情報」や、実際に越水や決壊が起きたことを知らせる「氾濫発生情報」の発表を契機に配信する。千曲川流域の配信対象は県内9市町村。同整備局は千曲川の国管理区間を3エリアに大別し、該当エリアの近隣の市町村にいる人に一斉送信する。

一方、長野市穂保では13日午前1時10分すぎ、越水を確認したのに合わせ「河川の水が堤防を越えて流れていまます」との内容で氾濫発生を配信した。氾濫発生を伝える同省の文例としては堤防決壊時を想定した「堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出してい

ます」もあるが、これは流していない。同整備局は越水後に決壊した場合、越水と決壊の両方を配信する仕組みはなっていないとしつつ「決壊は重要な情報。今後の課題と認識している」としている。国は緊急速報メールのほか、自治体や報道機関に洪水情報を伝えている。自治体が防行政無線や緊急速報メールで住民に伝えているケースもある。

緊急速報メールは、茨城県で鬼怒川が決壊した2015年の関東・東北豪雨を踏まえて国が導入。千曲川の国管理区間では17年5月に配信が始まった。県河川課によると、上田市大屋橋より上流の県管理区間の2カ所でも越水したが、県は緊急速報メールを配信していない。県は市町村に情報を伝えているが、直接メールで発信することは義務付けられていないとしている。

「正式な連絡がなくコメントしようがない」とした。同市国分の越水については市は12日午後8時前に市民向けの防災メールで「千曲川の堤防が崩れ始めています」と告知、堤防の異常は認識していた。当時災害対応は錯綜しており、情報の入手先は現時点で正確に答えられない」としている。

千曲市長「情報発信確実に」
国土交通省が緊急速報メールで千曲川の「河川氾濫発生」を流していなかったことについて、千曲市の岡田昭雄市長は15日、「国からの情報提供はとても重要で、情報発信と提供を確実にお願いしたい」と

「正式な連絡がなくコメントしようがない」とした。同市国分の越水については市は12日午後8時前に市民向けの防災メールで「千曲川の堤防が崩れ始めています」と告知、堤防の異常は認識していた。当時災害対応は錯綜しており、情報の入手先は現時点で正確に答えられない」としている。

今秋の台風対応 政府併せて検証
避難対策も議題に
政府は15日、今秋の一連の台風や豪雨への対応を併せて検証することを決めた。千葉を中心被害を出した台風15号の検証チームが台風19、21号も議論の対象に追加。長期停電や国や自治体の初動対応に加え、住民避難も議題とする。

来年1月中旬に停電や初動対応、通信障害といった台風15号で浮かび上がった課題について中間報告。来年3月末までに台風19号なども踏まえ、防災気象情報の在り方や住民避難対策、避難所などを含めた最終報告をまとめる。報告はこれまで年内にまとめるとしていたが繰り延べる。台風19号では自宅にとどまったお年寄りや、車で移動中の人々が犠牲になっており、避難対策を議題に加える。中央防災会議の下に有識者作業部会を設け、改善点を議論する。停電や通信障害は経済産業、総務両省、河川の氾濫や気象情報発信は国土交通省と気象庁が検証しており、政府全体の報告に反映させる。

しなの鉄道全線再開

幹線つながり安堵

広域観光の「生命線」

しなの鉄道(上田市)は15日、上田―田中間の運休が解消し、篠ノ井―長野のJR区間を挟んで東北信地方の約100キロを結ぶ幹線鉄道が台風19号から約1カ月ぶりに

日常を取り戻した。軽井沢など有数の観光地を抱える地元で安堵が広がった一方、しなの鉄道は利用客の挽回や千曲川沿いの「水害リスク」への備えといった新たな課題に直面している。

(古志野拓史、河田大輔、高橋幸聖、竹端集) 【一面参照】



始発から全線で運行再開したしなの鉄道。後方は崩落した海野宿橋=15日午前10時12分、東御市本海野

「水害リスク」課題に

「お叱りや励ましを受けながら、今日を迎えた。地域に果敢と連携し、慌たたくし対応した。1997年北陸新幹線(長野)の春日社長は、代替輸送や復旧に野経由、開業に伴い信越線軽

井沢―篠ノ井間をJRから引き継いで開業以来、1カ月に及ぶ運休は初めて。通学への影響が広がり、北陸新幹線とも連携した大規模な代替輸送に踏み切った。上田市や東御市の国道では渋滞が慢性化。しなの鉄道から車での移動に

15日は早速、上田―長野間を観光列車「ろくもん」が臨時運行し、視察に訪れたフランスのワインツーリズム関係者10人ほどが乗車。一行を受け入れた軽井沢観光協会などは、バスで東御市の旧北国街道海野宿や千曲市の酒蔵を案内した。

長は「早い対応に心から感謝する」と受け止めた。「8月の浅間山噴火に続き、台風19号の風評被害もあり、地元の宿泊施設や飲食店には大きな影響が出ている」とし、冬の観光シーズンに期待。災害への公共交通の備えとして「普段から、いかに県や市町村で協力態勢を構築できるかが重要だ」とも述べた。



切り替えた人たちの影響もあつた。春日社長は自戒を込めて「沿線市町などと連携し、工夫できることはしていった抜本策は現実的でない」とするにとどめた。

「不通区間残る別所線 復旧を願う署名運動」呼び掛け人代表でシステム会社会長の宮島仁一さん(68)は「上田市は、車社会ではあるが、交通弱者や観光の足として年間130万人を運ぶ別所線を大切にしたい」と訴え、賛同を呼び掛けた。沿線の長野大学生も出席し、「通学やアルバイトに不可欠なのに、動くのが当たり前だと思っただけに、別所線の中づら広告に応援メッセージを載せるための寄付募集を紹介した。

しなの鉄道・春日社長



しなの鉄道(上田市)の春日社長(65)は15日、全線運行再開に際し信濃毎日新聞の取材に応じた。しなの鉄道線運休中のバス代替輸送、千曲川の氾濫に伴い被災した北しなの線の設備復旧、運休による減収などによる影響額は「数億円」との見通しを示した。路線の多くが千曲川沿いに敷設されていることを踏ま

運休など影響「数億円」

定した点を春日社長は「全利用者を輸送するバス確保の難しさや渋滞、費用負担の問題があった」と説明。他の利用者には「申し訳なかった」とした。北陸新幹線(長野経由)による代替輸送を担ったJR東に「新幹線がなければ輸送し切れなかった。英断に感謝したい」とした。代替バスの費用負担は沿線自治体など今後検討を進める。

同23日から今年14日までの23日間、不通の上田―田中で運行した代替バスは1日25台ほどを確保し、1日600〜700人、延べ約1万8千人が利用。対象を学生・生徒に限

あの時^{そして}今

千曲川氾濫 1か月

「お疲れさまです」。12日、被災した家々の片付けが続く長野市穂保に、弁当を配って回る青木恵さん(44)の姿があった。薄い草色のヘアバンドで髪を巻いた、明るい笑顔。この日40食を届ける先は、自ら飛び込みで声を掛け、つないだ主にお年寄りの世帯。「青木さんと会うと、ひと息つけるよ」。自宅が床上浸水した吉村博之さん(82)も、まだ泥が残る玄関先で弁当を受け取り、表情を緩めた。

飲食店に声掛け炊き出し 長野・松代の女性 住民のつながり願い 支援継続

支え合いに見た可能性

んと最初に会ったのは、千曲川支流の氾濫で水が漬いた松代の東寺尾区だった。自宅は被災を免れたが、氾濫翌日の10月13日、同じ松代の一部が水浸しになっていると知り、気がせいた。いろいろ

きないか連絡。浸水で近所の大型スーパーや交通手段を失ったお年寄りに食事を届ける必要があると分かった。イベントで知り合った市中心街の飲食店主に相談。間もなく居酒屋やカフェなど14店が炊き



「楽しみに待っていたよ」「疲れているから助かるわ」。昼食の弁当を配達し、住民と話す青木さん(左)12日、長野市穂保(有賀史撮影)



泥水に漬かった長野市松代町=10月13日午前6時20分

長野市松代町の氾濫被害。台風19号通過に伴い、10月12日午後9時ごろ、長野市松代町東寺尾で千曲川支流の蛭(ひる)川が越水。午後11時18分には松代町柴で千曲川が越水した。東寺尾、西寺尾、城北、城東、松代温泉などが水に漬かり17戸が大規模半壊288戸が半壊、285戸が一部損壊。大型スーパー2店も浸水した。

「あったかいごはんをありがと」。公民館に張り出された住民の書き込みにも、いろいろな人が交じり合い、支え合う地域の可能性を感じる思いがした。

「青木さん、つないでよ」。松代での活動が一段落すると、ボランティア団体から同市穂保への支援を求められた。車で40分ほどかけて出向き、家も、畑などの生業の場も押し流され、「もうここには住めない」との声を聞いた。有志の穂保被災者支援チーム代表、太田秋夫さん(68)と炊き出しの拠点を探し、再び飲食店主らをつないだ。

以来、末っ子を保育園に送ってから、毎朝通っている。「お母さん最近どこ行ってるのって聞かれるんです」。青木さんは苦笑いする。

被災から1カ月がたち、市内各所で仮設住宅の建設が進んでいる。ただ、下手をすれば「住民がばらばらになり、街や人のつながりが失われてしまいかもいけない」。そんな心配が頭をよぎる。

今年11日、隣の津野地区で開いた炊き出しで、「元気があったかい」と涙を浮かべて再会を喜ぶ住民を青木さんは見た。生活再建に追われる被災者にとって、炊き出しには、おなかを満たすこと以上の意味がある。そう感じている。

(島田 周)

長野・長沼 農地の土砂撤去開始



重機による土砂の撤去が始まった長野市津野の水田=15日午前10時39分

長野市は15日、台風19号による千曲川堤防の決壊で、農地に厚く堆積した土砂を撤去する作業を同市長沼地区で始めた。ボランティアによる農地の泥出しと作業を分担しながら、20センチ以上の土砂が積もる51センチから優先的に進める。初日は泥が約20センチ積もった津野の水田で、市から作業を委託された市内の建設会社が重機で泥をかき出した。約3400平方メートルの水田は、あぜとほぼ同じ高さまで泥が積もり、用水路と田の境目も分からない状態。午前10時すぎ、業者が水田横の道路からショベルカーで泥をかき出し、トラックに載せる作業を始めた。

市内にあるこの業者の残土置き場に運ぶ。水田を所有する市内の会社員丸山忠明さん(63)によると、水田では知人の農家がコシヒカリを作っていた。「現場を初めて見た時はどう対応していいかわからなかった。待ち望んでいた作業が行われ、ありがたい」と話した。

市は土砂が20センチ以上積もる「優先区域」内の地権者226人に工事実施案内を送る。地権者が同意した農地で順次作業する。長沼地区ではボランティアによる農地の泥出しも14日に試行。今後本格化する見通しで、果樹園の木の根元にある泥のかき出しなど、重機では行にくい作業を担ってもらう。

市森林農地整備課によると、撤去した土砂については、市内の複数の農地所有者らも仮置きや盛り土に同意しているといい、市が手続きを進めている。